

# 明るい社会づくりについて考える

## 第58回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 最優秀賞受賞作文を紹介します



### 「高れい者体験教室を 通って学んだこと」

小佐小学校6年

廣瀬 華加

「お年よりがいます。」

私は勇気をふりしほって、大きな声  
であいさつをしています。

うちの近くのおばあちゃんは明治時  
代生まれのお年よりです。元気でいつ  
も畑仕事をしてあられます。でも前、  
あいさつをした時、なにも言わなかつ  
たので「なんで無視するんだらう。せつ  
かくあいさつしてるのに。」と思ってい  
ました。

そんなある日、学校で高れい者体験  
教室があり、豊岡の社会福祉協議会の  
人が来られました。最初は、お年より  
になるとうなるのかというクイズを  
しました。「お年よりは何才からか。」  
というクイズがあつて、私は70才から  
だと思っていたけど、本当は65才から  
でした。そう考えたとき、私のおばあちゃん

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深めるなど、明るい社会を築いていくための法務省主催の全国的な運動です。その一環として、小学生を対象に作文コンテストを実施しています。

このたび、同コンテストの兵庫県審査で最優秀賞の「兵庫県実施委員会委員長賞」を受賞し、全国審査でも優秀賞の「全国保護司連盟会長賞」を受賞した廣瀬華加さん（小佐小学校6年）の作文を紹介します。

んも、もうお年よりということがわかりました。だから何かたのまれたら、手伝ってあげないとなあと思いました。

また「お年よりになると感覚はどうなるのか。」というクイズもしました。私は、温度はわかりにくく、痛みがわかりやすいと思っていました。だけど答えは「温度も痛みもわかりにくい。」でした。だけど、よくおばあちゃんには「痛たたた。」と言います。わかりにくくて、それだけ痛いということ、私だったらもっと痛いということ、次はお年寄りの体になる体験をしました。最初にモデルでた人が装具をつけました。まずバンドでひじとひざを固定しました。そして手や足に重りをつけ、腰が曲がるようにしてスリッパをはいてゴーグルをつけ、耳には

## ◎ 「明るい社会づくり」について考える



装具をつけて高齢者の体の動きを体験しました

ティッシュをつめてつえを持ったら、まるでおじいさんのように見えました。次は自分たちが2人組になってつける時、

「こんなかつこういやだ。」

と言っている人がたくさんいました。

そうして私もお年よりになってみました。ひじやひざにバンドをつけていく時、お年よりになると目には見えなくてもこんな物をつけている感じなんだなあと思いました。こんな物をつけて畑や田んぼ仕事をしているおばあちゃんが見えなあと思えてきました。

そしてつげ終わって、体育館に行っ

てボール投げをしました。いつもやっているバレーボールもしくしく、ボールが顔のほうにとんできた時はこわかったです。耳もティッシュが入っていたのでサポートする人が何か言っても聞こえにくくて、何度も

「ええ。」

と聞き返さないかわかりませんでした。だからあの時、近所のおばあちゃんは聞こえなかったんだということがわかりました。もっと大きな声で

「おはようございます。」

と言えばよかったですなあと思いました。

そんなある日、先生が新聞の投書を読んでくれました。そこに、こんな事が書いてありました。転倒して胸を強く打ち通院しておられたお年よりの方が良くなったので、そろそろと買い物に行かれたそうです。その帰りに、自転車に乗った女の子が後ろからぶつかってきて、そのお年よりはこけて荷物がちらばってしまいました。でも女の子は、

「バカ。」

と言って走り去って行ってしまったそうです。私はその話を聞いて、そんな子がいるなんて信じられませんでした。私なら

「だいたいようぶですか。すみません。」と言ってから落ちた荷物を拾います。そのお年よりは本当に悲しかったと思います。女の子も年をとると、どんなふうになるのか知って考えていたら、バカと言って走り去ることはなかったと思います。

私たちは修学旅行で広島、山口に行った時、路面電車に乗りました。満員であとから一人のおばあちゃんが乗ってきました。私と友達の横に立っていました。ゆれる中、私たちがすわっていてお年よりが立っていたので、私と友達が勇気を出して席をゆずってあげました。すると、とてもやさしそうなおばあちゃんは何回もうれしそうにお礼を言ってくれました。私と友達は、席をゆずってよかったですなあと思いました。

高れい者体験をしてからは、うちの近くのおばあちゃんに、前よりも大きな声であいさつをしています。おばあちゃんは喜んであいさつしてくれま

す。お年よりは少しのことでも、うれしそうに喜んでくれます。そうやって喜んでもらえる私もうれしいので、これからもお年よりにやさしくしていきたいです。